

## 地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年11月10日（月）午後6時00分～午後7時00分
地 区	星田西地区
場 所	コモンシティ星田西3丁目集会所
参加人数	12人

### テーマ1「公園、緑地の整備と維持管理費用の増額等について」

#### 区 長(テーマの趣旨)

- 星田西地区では、都市公園等の維持管理報償費として年間165,000円が市から支給されている。かつては地域の若い世代が中心となり、除草や剪定などを行うことで一定の美観を保ってきたが、近年は高齢化の進行により、地域だけでの維持管理が困難な状況となっている。危険な高所や急斜面の除草は住民の手に負えず、地域で業者委託することも考えており、市の支援や費用面でのサポートを求めたい。

#### 市 長

- 市では、公園や緑地の管理報償費を地区に支給しており、現在、面積が大きくても報償費の支給が増えない等の設定に課題があるため、この基準を見直しており、これまで一律的だった配分を、より公平な基準に改める方針である。
- 星田西地区では、公園等の面積の基準からこれまで年間165,000円の支給額を来年度は225,000円にする方向で調整している。また、急斜面や高所など危険を伴う箇所は、シルバー人材センターでも対応困難なため、必要に応じて民間事業者の活用を検討する。
- 地域で対応が難しい箇所は、市と区長・自治会で協議のうえ、市による業者対応も可能とする。地域のボランティア活動への感謝を示しつつ、面積・労力に応じた「公平な負担と報償」の仕組みを構築していきたい。

#### 意 見

- 地域では年間21回、延べ150人以上がボランティア清掃に参加しており、これ以上の自助努力は難しいところがある。また、高所の石垣や傾斜地は危険であり、住民による清掃は難しい。事故となる危険性を考慮していただき、市による対応を求めたい。
- 報償費の増額は大変ありがたい。引き続き、地域でも管理可能な範囲は対応していくが、危険を伴う箇所は、行政と連携しながら進めていきたい。  
→[市長]対応については、地域の中で協議いただくことが必要であるが、困難なことは市へ相談・要望をいただきたい。

## テーマ2「おりひめバスの利便性向上等、これからの公共交通のあり方について」

### 区 長(テーマの趣旨)

- 京阪バスの撤退に伴い、交通手段の確保が課題となる中、おりひめバスの切れ目のない運行は地域にとって大変ありがたい。
- しかし、JR 星田駅の電車との乗り継ぎの悪さや、便数の少なさ等の課題もあり、さらなる利便性向上をお願いしたいと思っている。

### 市 長

- おりひめバスは令和7年3月の京阪バス撤退後、急遽運行を開始したため、ダイヤ編成が十分でなかった。今年7月にダイヤを改正し、さらに来年7月にも改正予定である。
- 平日は、現行の40分間隔から、30分間隔への短縮を目指し、JR 星田駅の電車との接続を改善していきたい。特に通勤時間帯の運行強化など、バスの利用実態を踏まえて検討していきたい。
- バス運行経費は年間約2億円で、その多くを人件費が占めている。この経費については、国の補助金を活用し、令和8年度以降も路線維持を継続していく方針である。
- 運賃200円は維持し、安定的な運行を目指すためにも、定期券の利用促進を通じて乗車率を高めていきたい。
- オンデマンドバスの実施は、現状の乗車数(1便あたり10~15人)を踏まえると難しく、現行の運行が最適であると判断している。
- 来年度、星田駅には交番が移設予定であり、今後、市役所の出先機能(行政窓口)の設置に向けた検討もしている。星田駅周辺で日常生活が完結できるようにしたいと考えている。

### 意 見

- バスの運行に感謝している一方で、JR 星田駅の電車とバスの接続に係るダイヤ改正の調整をお願いしたい。特に、夜間の電車到着直後にバスが発車する便など、働いている世代で、夜遅くに帰宅する人たちのためにも、時間調整をお願いしたい。
- 一方、休日のバス利用者が非常に少なく、将来的なバス廃止を懸念しており、何より安定的・継続的な運行を切に願っている。地域としても、住民の利用促進イベント(例:おりひめバスで地ビール工房へ行く企画)を計画するなど、住民の乗車機会を増やす取組を進めていきたい。
- 地域と行政が一体となって「自分たちのバスを守る」という意識を持ち、バス利用の促進を図っていくことが重要であると考えているため、安定的なバス運行をお願いしたい。  
→[市長]今後も、国の交付金等を活用し住民の皆様にとってよりよい公共交通を検討していく。